

二〇二五年度（令和七年度）

福岡女子大学第七十三回卒業証書・学位記  
及び大学院第三十二回学位記授与式 式辞

本日ここに、上田哲子福岡県副知事、中尾正幸福岡県議会副議長をはじめとするご来賓の方々のご臨席を得て、第七十三回卒業式と第三十二回大学院修了式を迎えることができました。二四二名の学部卒業生、一六名の大学院修了生、そして大学から得られる最高の学位・博士を取得される三名の皆さま、まことにおめでとうございます。ここに至るまでには、様ざまな困難があったことでしょう。教職員を代表して、お一人お一人に、その努力に負けないだけの、お祝いを申し上げます。また、ご息女の成長を信じて、お誕生以来、絶えることなくご支援をされたご家族の皆さまには、労いと感謝の言葉を捧げ、このおめでたい日とともに喜びたいと思います。

学びというものは、いつ、どこで、誰から、誰を仲間として学んだか、ということが大きな意味を持ちます。今日、それぞれの課程を終えられた皆さん

に共通するのは、学びの場であるこの女子大学です。女子大学であることの意味づけが、ここ数年話題になっていきます。確かに高等教育の機会を保証するところが、女子大学設置の目的でありました。別学教育の始まりです。男女に等しく高等教育の機会が実現した現在、そして急激な少子化が進むなかで、共学化に舵をきる、或いは学校を閉じる方針を発表する大学が出てまいりました。皆さんはどのようなにお考えになるでしょうか。私たちは、こうした動きに対して、女子大学であり続けることに、なお大きな意味があると考えています。

その一つの理由として、本学が主催する社会人対象のリーダーシップ研修に参加された方から寄せられた感想を紹介いたしましょう。

〈引用します。〉

「∴女性だけを集めることの意味、それって本当に正しいのかな、というところを含めて、最初はどうかかなと考えていましたが、女性だけのこの空気の中で、不安の要素なく発言ができて、すごく共感してもらったりしたことが、非常に大切な経験だったなあ、

と思います。

その一方で私たちが実際に社会に出ていくときには、こんなに恵まれた環境ではなく、ほぼほぼ男性社会の中でどう振舞っていかかというところが、実践になっていくのかなと思うと、教わったことを活かすつもりも、自分自身の環境のなかで、これを応用していかないといけないなと思いました。」

〈引用終わります。〉

女性だけが集まる環境で、各人が持つ潜在能力を互いに引き出し、女性同士でためらいなく男性主導のホモソーシャルな社会のありようを観察し、課題をみつけ、時にリーダーとなり、時にはフォロワーとなるリーダーシップを身につける場が女子大学であることを教えてくれています。女子大学にあっては、女子が率先して発言し、行動しない限り、事前に進まないのです。在学中に冷静な目で社会を観察し、課題をみつけ、言葉を鍛え、発案することを覚え、そして行動のスタイルを身につける、それが可能となる環境が女子大学であり、ここ福岡女子大学であると考えます。

本学は、創立百周年を迎える過程で、過去を振り返り、大学への自信の裏付けとなるよう、この度、代表的な活躍する卒業生を紹介するコーナー「プライド」をホームページに掲載し、共有を図りました。文字どおり、大学の矜持であり、誇りとなるものです。本日、卒業或いは修了される皆さんが、この高い峰に連なるとご想像ください。自ずから力が湧き出るものと信じます。

自信 (confidence) と矜持 (pride) は、これから社会に出ていくうえで、とても大事なよるべです。我々が持つプライドには、様ざまな側面があります。獲得した専門知に対する自信、友情の交わりと連帯、努力したことの成果、確立した価値観などがその中心を占め、周辺には家族・家庭への信賴、学んだ学校と学風、留学体験などがあります。こうした要素から生み出される「自分らしくて良い」という自己肯定感が何よりも重要であり、この肯定感をもって、社会に飛び立っていただきたいと思います。

その社会で待ち受けるのは、AI (人工知能) に

代表されるデジタルの世界です。大学では、研究倫理の観点からAIは慎重な使用が原則でした。研究推進の補助的手段としてAIを用いても、責任は我々人間が持つ、という姿勢でした。しかし、一旦、社会に出れば、否応なく積極的なAI使用が求められるのでしよう。また、時間の制約等で、そうせねばならない局面も出てくるでしよう。AIは情報の正誤を含めて博識です。しかし知性がある、感性・感情がある、とは言えません。人間の場合とは異なり、AI自身について伝記が書かれ、その物語が我々を鼓舞したり、癒したりすることもありませんし、先ほど話題にしたプライドをAI自身が感じることもないでしよう。主役はあくまでも私たち人間であり、AIを駆使して導いた結果に最終責任が取れるような主体的な使い手であり続けてください。

もう一つ人生の先輩からの繰り言を申し上げます。SNS上で、情報を振り回す、或いは振り回されがちな若者に対する助言です。(ポストと表現するそうですが)我が身を投稿された写真や報告と比較して、「ここにいる私」に満足できず、「ここじゃない所に

いるはずの私」を求めて、失望する、自信を無くす傾向が指摘されています。「自分の感受性くらい自分で守れ」の言葉や「寄りかかるとすればそれは椅子の背もたれだけ」の強い信念を発した、皆さんに馴染みのある詩人、茨木のり子さんが、ラジオで語っていました。山形県の雪深く、苦勞の多い山奥で出会った、九〇歳になろうかと思える老婆の美しさについてです。それは、「自ら足るを知る」顔であったと。そして詩人自身もそうありたいと強く願ったという話です。類話は、ノートルダム聖心女子大学の学長であられた故渡辺和子さんにもありました。聖書にある端的な言葉——「置かれた場所で咲きなさい」——を巣立つ学生たちに贈られた、はなむけの言葉です。お二人の感性は、一見、消極的であるように思えますが、健全な心を持ち続けるうえで、是非、心の根っこにとどめていたただきたいと思います。

さて、この香住ヶ丘に置かれた大学ですが、これからも大きな花を咲かせるべく、変革を遂げ続けます。ご存じの通り、環境科学科を改組して、DX（デジタル・トランスフォーメーション）とGX（グリーン

ン・トランスフォーメーション）に対応する二つの学科を設置し、これからの社会が求める理工系の女性人材の輩出にいつそう努めます。また本学キャンパスが寛容な社会の縮図となるよう、入学する女性の多様化を図ります。その他、二〇四〇年を想定した大学の将来像を、教職員一同で、現在、検討中です。

大学は、同窓会（筑紫海会）とともにあなたたちを見守り、付与した生涯メールを通して情報をお届けし、支援し続けます。皆さんは、変貌する、そして進化する福女大を見守ってください。

では恒例の儀式、皆さんの出陣を祝して、鬨の声を一緒にあげたいと思います。日本語では、「エイ、エイ、オー」英語では「Hip, hip, hurrah」ですが、ここでは、F-W-Uと言いたいと思います。一緒に拳を上げ、声を出してください。

皆さんの前途を祝して、 F-W-U

これを以って、お祝いの言葉、お祝いの声とさせ

ていただきます。

令和八年三月十八日

公立大学法人福岡女子大学

理事長兼学長 向井 剛